

第1回篠山市総合教育会議 議事録

1. 日 時

平成28年8月1日（月） 10時00分～12時00分

2. 場 所

市役所第2庁舎3階 2-302会議室

3. 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明

教育委員会

教 育 長 前川 修哉

教育委員 酒井 克典

教育委員 中村 貴子

教育委員 垣内 敬造

教育委員 井上 友香

4. 構成員以外の出席者

教 育 部 長 上田 英樹

5. 事務局出席者（教育委員会事務局）

次長 松笠 勝也

教育総務課 課長 小林 康弘

学校教育課 課長 尾松 直樹

こども未来課 課長 前中 齊

社会教育・文化財課 課長 村上 由樹

東部学校給食センター 所長 齋藤 昭

西部学校給食センター 所長 柏戸 隆弘

中央図書館 館長 赤井 毅彦

たんば田園交響ホール 館長 小林 純一

地域コミュニティ課 課長 樋口 裕昭

人権推進課 課長 大戸 輝美

教育総務課 係長 山本 圭太

6. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	1 開会
酒井市長	2 報告・協議事項
小林課長	(1) 篠山市教育大綱の進捗状況について
酒井市長	《資料に基づき説明》
酒井委員	まず、ふるさと教育の「1. ふるさと教育（1）篠山ほどよいところはない」について
垣内委員	成果・課題の中で「この野菜は篠山でとれたのかな」とか、「篠山のために何かしたい」という言葉が子ども達から出てきているということで、全体として篠山を意識してくれ始めたのではないかと思う。ただ、今の段階はこれでいいと思うが、今後、どのような指導案で指導していくのかということが、学校の中で議論されているのか。体験をするだけでなく、何のためにこのような体験をしているのか、というところまで子ども達に伝えてほしい。ヒーローについては、本来オオムラサキやオオサンショウウオやモリアオガエルなどは、以前は珍しいものではなかった。それに今焦点を当てて観察していこうという取組には、人間の価値観や思いが変わってきているのではないかと思うので、その部分もきっちり学ばせてほしい。篠山では、河川の改修の中で、人間優先の考え方から、生き物と共に暮らしていくという考え方になってきている。そこに込められた思いや願い、人間観を教える教師たちも学んで、子ども達に伝えて欲しい。
酒井市長	ヒーローを作ることで専門家のご意見を聞いた方が先生方にとっても分かり易いのではないかと思う。そこで、市長部局の農都環境課との連携などを図る必要がある。生き物を大切にすることで、どのような効果があるのかということも学んでいくということが、学校にとってもプラスになると思う。まだヒーローを選定されていない学校・園があるので、連携を図って進めてほしい。
前川教育長	「（3）自然とふれあう教育」に移りたいと思うが、酒井達哉氏にはどのようなことをしていただいているのか。
松笠次長	まず学校の周りがあるものを教材化する手法、そして、個別に声がかかれば行きますというような内容のものである。
酒井市長	現段階で個別に指導を受けたということはない。
前川教育長	各学校・園のヒーローを見ていると、本来の目的とは違ったもの選ばれているように感じる。楠などは学校のシンボルであると思う。
酒井委員	我々が考えているヒーローの意味が伝わりきっていないと思う。
	ヒーローというのは、昔は当たり前だったが、人間の生活の変化でずいぶん減ったというような視点で考えると、我々だけでは視野が狭くなるので、垣内委員からあったように連携というのがポイントになると思う。我々の中でもヒーローとはどういうものかということ論議して見つけていく必要がある。

井上委員	ヒーローは、その学校園で大切にしているものという考え方で良いのではないか。城南幼稚園でも、預かり保育施設の名前に「くすのきクラブ」という名前を付けて、楠が学校のシンボルであり、大切する気持ちをもとうということでもヒーローになるのではないか。
酒井市長	今回は、自然と触れ合う教育ということで、動物や植物など自然体験を進めていく上でのヒーローなので、シンボルである楠は違うと思うし、特産物である芋や豆や米ではないと思う。特産物を作るということは非常に大切なことであるが、ヒーローとは違うのではないか。今までしていた取組を個々に当てはめただけというように感じる。
垣内委員	楠に集まってくる生物を観察しよう、そこから自然と触れ合っていこうということがあればそれでいいと思う。
酒井市長	シンボルや特産品をそのままヒーローに設定しているようなものは違うと思う。また、学校特有のものとするならオオムラサキが多くの学校で設定されているのも違うのではないかと思う。
井上委員	私自身が篠山で生まれ育った者ではないので、篠山をふるさとと言ってもピンとこないところがあるのが現状であるが、中学校のまけきらい神社のお相撲さんのお話を、文化祭の時に取り上げていただいたり、小学校で味間小学校の前身の小学校の校歌を歌ったりして、子ども達に一生懸命私も知らない篠山を教えてもらっているのが有り難く思う。そのことを親が子どもと語れるかという中々できないので、親子宿題のような形で、親子で学ぶことが出来るのではないか。親も篠山のことを知るきっかけになればと思う。
酒井委員	今の話のようなことの指導案があるのか。学んだことをきっかけに、自ら調べて学ぶということまでいって初めて学びとなる。これからの子ども達に必要な力なので、指導計画に基づいてやってほしい。
中村委員	全ての学年でふるさとを学び、ふるさとを大切に思う心が育っているとこの一年実感している。地域をチャンスにしている学校があるので、他の学校もぜひ取り入れてほしい。一点、講師を招くときに、どう探せばいいのかわからないという声があったので、対応いただきたい。また、黒豆に関しては何の学校も取り組んでおられるので、是非、子ども達の斬新なアイデアで、篠山の新商品が出来ると素敵だなと思う。
酒井市長	概ね良い取組が行われているということだと思う。波々伯部神社の祭りが新聞記事に出ていた。今年は三年に一度のキウリヤマが出て、そのうえでデコノボウという人形劇が行われる。このようなことが行われているということをみんなが知っているのか。市民全体からするといつ行われているのかということは浸透していないのではないか。他にも福住の水月祭やの佐々婆神社の「畑まつり」など、各地にたくさんある例祭を全て教えるということは難しいとは思いますが、そういうことは市民に知らせてほしい。
酒井委員	社会教育に関することが本当にたくさんある。冒頭のお話であったように、社会教育委員さんとの意見交換会をしたが、社会教育委員会をもっと

垣内委員	<p>活性化して、そこで意見を聞き、我々と一緒に考えていくことが大切であると考える。</p> <p>先日の社会教育委員さんとの意見交換はすごく有益なものであった。その時、私の質問で、文化財をどのように社会教育委員さんの中で活用していこうと思われているかという質問をした。その時には、人間の育成を大事にしたいということだったと思う。それも大切なことだと思うが、文化財のような教育資源をないがしろにするわけにいかないの、人の教育も勿論だが、誰かがしないといけないので、地域に眠っている思いを持った人材を探して、活動していただくということで、文化財のような物を活性化するという活動も必要だと思う。</p>
前川教育長	<p>先週「波々伯部神社のすべて」という冊子を届けていただいた。この冊子の作成のきっかけになったのが、歴史美術館で山車の刺繍などの展示があり、地域の方が歴史美術館におみえになり「実は、私たちは氏子であるが神社のことを断片的にしか知らない」という意見があり、そのことからまとめられることになったと聞いた。ふるさと教育で大事なものは、受け継がれてきたものがある時代に継ぐものが無くなってきて、歴史的な経緯などが伝わらなくなってきている現状がある中で、こういった冊子が出ることは非常に良いことだと思う。今度は、それを学校教育、社会教育など、各世代に応じたコーディネートをどうしていくか。市民総がかりで伝えていく仕組みづくりが必要あるのかもしれない。歴史美術館などは、地域の資源をうまく活用していくことが大事だと感じている。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>次に「(2)篠山の食をいかした学校給食」に移りたいと思う。</p> <p>大変良い取組をしていただいている。特に給食甲子園への応募は良い事だと思う。良い結果になればいいなと思うが、強豪も多い大会ではあるので、個人的な意見として、非常に打算的にはなるかもしれないが、甲子園での勝率よりも、地元産野菜の活用率については、全国的な評価基準がないため、日本一だと言ってしまえるものだと思う。今はそこを日本一という計画は無いということだが、こちらの方が、勝算があるのではないかと思う。なので、今年中に何か成果を上げるとすればこの部分が早いのではないかと思う。給食に対してのご意見が多いということは、期待がかかっていることでもあると思う。</p>
酒井委員	<p>農林水産省に聞いても、文部科学省に聞いても、はっきりとした基準が無いということだった。農林水産省が言うには、文部科学省の調査結果によるということ。ただ、地元食材活用率日本一という意気込みでやろうということだったと思う。豊岡の鞠は日本一だと言っているが、鞠だけの統計は無かったが、政治的にもものすごく働きかけた結果、鞠部門を出して初めて豊岡が日本一になった。戦略を練って、働きかけを県や国にしていくべきだと思う。そして、できるだけ地元の食材を使った安全で安心な給食を提供しているということをアピールしていく必要がある。それと、キー</p>

柏戸所長	<p>ワードは連携だと思う。農都創造部に聞くと、年2回話はするが、具体的な話はあまりない。一担当部署がやってもできない問題だと思うので、様々な機関とも連携してやっていく必要がある。それと、予算化することで、市の方向性を示していかないと、達成できないのではないかとと思う。</p> <p>地元野菜調整会議を先日開催したところである。今回は特に安全安心という視点で、農薬の使い方についての指針である「防除栽培指針」を県の農業改良普及センターに点検していただき、新たに作り直し、各事業所に配付した。納品時には農薬を使用したときに付けていただいている防除日誌も付けるようにしていただいているが、もう一度点検してほしいと依頼している。農協等との連携に関しても、この調整会議の中に味土里館の館長にも入っていただいているので、しっかりできている。</p>
酒井委員	<p>今の取組が市民の皆さんはご存じなのか。前向きでよい取組が出来ているが、情報発信がポイントになると思うのでお願いしたい。今年一年で何ができるかということでスピーディーに進めてほしい。</p>
酒井市長	<p>記者発表等でPRしていかないと、市民の皆さんは全く知らないということになる。</p>
前川教育長	<p>篠山市の給食センターの残菜率が非常に少ない。地元の物をたくさん食べて、更に残菜が少ないということをセットでPRしていくことで、給食センターで働く方にとっても励みになる。</p>
酒井市長	<p>「2. 地域に開かれた学校（1）コミュニティスクール」に移りたいと思う。</p>
中村委員	<p>今年は全学校で実施されるようになり、どのようなことをするべきか、ということが手探りの状況の中ではあるが、篠山小学校で委員として活動している。篠山小学校はデカンショ節に歌い継がれた歴史ということがあったので、デカンショにのせた活動を展開しており、PTCAフォーラムで、この活動を是非ほかの学校にも発信していきたいと思っている。</p>
酒井委員	<p>この短い期間で全ての学校で立ちあがったということは快挙である。そこで、例えば、教育大綱を委員さんに見せてこれが出来ているのかということをお話することも必要ではないか。学校運営についての方針を了解していただき、情報発信をしていくことで、単にPTA活動の延長ではない。地域、保護者、学校が互いに当事者意識を持って、責任をもち地域の学校を育てていくという考えであるので、そこは意識して進めていただきたい。</p>
井上委員	<p>昨年度はコミュニティスクールの顧問として関わらせてもらったが、学校側が、色々な事業の説明をし、地域の方が意見をおっしゃるということで、学校に対する申し入れのような形で、例えば「学校の子どもたちにもう少し挨拶ができるように」「見守りをこんなふうにしてはどうか」というようなことだった。そういった目的を持った話し合いが、どの学校もできているのであれば意味のあるコミュニティスクールだと思う。なので、年度途中にでも、他の学校の状況が分かれば、もし、うまくいっていない</p>

酒井市長	<p>学校があれば、それに気づくことが出来るのではないかと思います。なので、教育委員会へ活動の状況を報告するというのも大切なことだと思う。</p> <p>下手をすれば、学校評議員と同じように、ご意見を伺うというものになってしまっはコミュニティスクールではない。半分くらいは、まだそのような状況ではないかと思う。</p>
垣内委員	<p>始まったばかりなので温度差はまだあると思うので、学校間の情報交換は大切だと思う。中には、ふるさと朝礼として地元の方を呼んで、話をしてもらおうというような取組をされているところも出てきている。そういったアイデアを交換しながらより良くして行ってほしいと思う。</p>
酒井委員	<p>コミュニティスクールのあり方を示すのは教育委員会事務局の仕事である。そこで、まず全ての学校で立ちあがった。次にこういう方向性でやっていこう。その次に点検と評価をしないといけない。それを公表していくという流れを作らなければならない。</p>
酒井市長	<p>どうしているのかということを知ってもらわないといけない。</p>
中村委員	<p>8月18日にスクールプランということで、全校長がコミュニティスクールのことを含めて、学校のことを発表される場がある。おそらくそこでも報告があると思う。</p>
酒井市長 樋口課長	<p>次に「高齢者とともに学ぶ」に移りたいと思う。</p> <p>地域コミュニティ課から現状どのような所まで進んでいるかということ報告したいと思う。高齢者大学は現在7学園あるが、そのうち4つ「かやのみ」「多紀」「丹南」「さぎそう」学園について、それぞれ、城東小学校、多紀小学校、古市小学校、今田小学校と協議をし、具体的に高齢者大学の中の一般教養講座を学校の講堂で子ども達と一緒に学ぶという計画が出来ている。また、趣味講座というものがあるが、その中の「俳句」「太極拳」「吹き矢」といったものを学校のふるさと教育で5・6年生と一緒に学び合い、展示等を行う計画が出来ており、実施時期は11月前後を予定している。</p>
酒井委員	<p>高齢者とともに学ぶ取組は大きな可能性がある取組だと思う。今回計画ができていますので、丁寧に連携を進めていただき、全学校に広げていただきたいと思う。</p>
酒井市長	<p>続いて「3. 学力の確立と向上（1）読み、書き、計算、あのねちゃん」に移りたいと思う。</p>
前川教育長	<p>篠山市として一番力を入れているのは、授業である。今年度も年度当初から学校訪問を行ったが、まだ授業改善について方向がしっかりと浸透していない部分があり、夏休み期間中にも研修会を行う予定である。</p>
酒井委員	<p>このキーワードは「一人も見捨てない」ということだと思う。その視点で見ると、人員が不足しているというような記述があるが、そこでどう</p>

垣内委員	<p>するのか。足りない現状で何をすべきか。そのためにもコミュニティスクールがあるので、みんなで力を合わせて学校を作りましょうということになるのではないか。例えば、夏休み中に地域で子どもたちの勉強をしましょうということも出てきている。それぞれの学校で課題はあるが、具体的な対策が入る報告書にして欲しい。</p> <p>一人も見捨てないということを実現するために、フレーズの特徴としては「あのねちゃん」だと思う。このあのねちゃんの取組についての記載が無いように思う。ここに込められたコミュニケーション能力の部分について、今後詰めていけたらと思う。</p>
松笠次長	<p>一般的に学力の3要素と呼ばれる「基本的な知識技能を身に着ける」「それを活用して思考判断する力」「主体的に学習に取り組む態度」と言われるが、その中で読み書き計算の部分は主に基本的な知識技能ということになると思うが、「あのねちゃん」は広い意味で表現力、文書に書いて表現する。意識を持って自分が学んだことを表現するという意味で2番目の部分に関わってくると思うので、こういった事については、授業の中で自分をどう表現していくのか。分かったことはもちろん知識としてある。それをどう相手に伝えていくかという視点で授業改善を取り組んでいるところである。</p>
井上委員	<p>「あのねちゃん」は1年生～6年生すべてで取り組むべきだということか。</p>
松笠次長	<p>「あのねちゃん」を必ずするという意味では捉えていない。これは作文の書き方の一つの手法として「先生あのね」という書き方はあるが、それを全ての学年でするということではない。メインは表現する力の育成という意味で各学年で取り組んでいる。</p>
井上委員	<p>実際に読み書き計算の勉強をするときにその下に、「何番の計算が難しく、ここまでは出来たが、ここが出来なかった」「誰々としたら問題が解けた」というようなことを書く今回の問題についてのコメント欄があればその部分が「あのね」という意味につながるのではないか。</p>
酒井委員	<p>「先生あのね」というのは、作文の書き出しから始まった取組で、これはあくまでも低学年で使う手法だが、「あのね」という働きかけによってコミュニケーション能力を付けようというものである。そして、篠山の方向性として授業の中で立ち止まって振り返りの時間を作っていこうという取組をしてもらっているが、「あのね」という言葉は幼いなというイメージになるかもしれないが、この言葉に込められた趣旨を周知して欲しいと思う。</p>
前川教育長	<p>学校の中で、実際にこういった趣旨の取組をしているところはたくさんあるので、そこを焦点化していく必要もあるし、点検する場合には問い方も分かるように工夫する必要がある。</p>
酒井市長	<p>次に「(2) 市内3高等学校との連携」に移りたいと思う。</p>

酒井委員	今、非常に大事にされているキャリア教育につながりがあると思う。ここを大事にすることによってなぜ高校に進むのか。更に、高校生が小中の学校現場に来てもらって、自分の進路の方向性が決まるのではないかと思う。
前川教育長	中学校と高校の話し合う場が充実してきて、高校の方が事前に学校紹介のプレゼンに来ていただいている。そして篠山の高校をより身近に感じて、進路先として篠山の高等学校を感じてもらいたいような仕掛けをしている。
酒井市長	学校説明会をして、市外の学校をPRして市外にどんどん出ていくようなことでは、ここに書いている趣旨からは外れる。市内の3校についてしっかりとPRし、篠山市の子は篠山の高等学校へ行くという流れを作りたい。
尾松課長	学校の進路指導の方向性として、この学校は無理だというような指導はしない。基本的に本人が志望する学校について、データを元に生徒に寄り添った指導を行う。塾がどのようなランク付けをしているというような細かいことはわからないが、学校は生徒と保護者の希望を最優先して進路指導している。
井上委員	8月23日に兵庫模試を受けることになっているが、そこに希望する高校を書いて、模試を受けた中で、その塾に該当するこの中の偏差値を見ながらの評価が出るようになっていて、学校とは連携されていないと思う。
中村委員	篠山小学校の6年生の時に35人いた同級生が、高校に入ってみると7人くらい。バスケットボール部に入っているが一年生が2人、サッカー部は休部、ということを知った今の中学生が部活動をしたいという子たちが市外の高校を考えるという方向になってしまうことはあると思う。
酒井市長	これは忌々しき問題である。そうすると益々少なくなってしまう。
酒井委員	篠山の高等学校としては、受け入れた子ども達を何とかするという思いはうかがえるが、中々保護者の要求には応えられていない部分があるように思う。その子ども達を送り出しているのは市民である。学びがサービスではなくて、自分たちで考えていくというものにしていかないといけない。学びが人任せになっているように思う。今回キャリア教育の話を進めてもらって、高等学校へ行って何をやるのかということを確認し、高等学校と連携を密にしてお互いに変わっていくということしかないと思う。
垣内委員	子育てを篠山でしたいという方はたくさんいる。それは誇らしいなと思う。ただ、それは幼児期から中学生までくらいの時期のことなのかなと思う。高校生になると他というようにも聞こえるので、忌々しき事態だと思う。それをどう是正できるのか、高等学校は管轄が違うので、この場だけで解決する問題ではないが、連携を取ることで篠山市の小中学校の想いを伝えて、少しでも高等学校の先生方に、子育てのやり方を理解いただき、篠山で子育てしたいと言われるようにしていければと思う。
酒井委員	高校へ訪問に行った時に、宿題をしてこない生徒がいる。学ぶ姿勢が全

	<p>くない子ども達をどう指導していけばいいのか。というような思いを聞いた。一方で、非常に頑張っている生徒もたくさんいる。そういった中で、学ぶということはどういうことかということをも市民全体で考えて、身に着けて高等学校で更に伸びていくという形を取っていかないといけない。中には高等学校の生徒が小学校の子供たちに勉強を教える活動をしてきている。そういった生徒を憧れにしてそうなれるような環境を作っていきたい。</p>
井上委員	<p>住吉台のふるさと一番会議でも出ていたように、篠山の高等学校から大学に行った子には無償の奨学金というような何か魅力があれば一歩になるのではないかと思う。</p>
酒井委員	<p>奨学金のあり方という議論があったが、例えば高校卒業後10年間定住したものには奨学金の返済を免除するというような制度にするなど、基金の使い方を検討していければと思う。</p>
前川教育長	<p>高等学校の学区が変わり、篠山が阪神間と一緒にになった。高等教育課が25年前くらいに説明があり、高等学校は再編されていく。ということで、目的は何かと聞くと、建て前は魅力ある学校づくりということであるが、実質は生徒が今後10年で6,000人減る。義務教育は数は少なくとも運営していくが、高等学校は1クラス40人という定員がある。単純計算でも150クラス無くなることになる。高等学校の統廃合にもつながっていくことになる。心配なのが市内の3つの高等学校がしっかりと生存できるかということである。それはハード面の支援とソフト面での進路指導等によりしっかりとしていかなければならない。</p>
酒井市長	<p>このことについては高等学校の先生を呼んでもう一度話をしないとけない問題である。篠山市としては遠距離通学の通学費の助成を行っている。議会から三田に行く子に対してもという話があったが、それは市内の高等学校への支援という大きな目的があるので、市内の高等学校のみとした。市内3校がどうなるのかということが分からない。</p>
酒井委員	<p>県のやっていることなので、先生の問題ではないと思う。課題のある生徒が入学してくると、高等学校も大変である。</p>
酒井市長	<p>そんな子は今はもういない。どの子のことを指して言っているのか。</p>
酒井委員	<p>学ぶ姿勢が無い子という意味である。</p>
酒井市長	<p>一時そういった状況はあったが、今はそのような状況にない。</p>
酒井委員	<p>その時のイメージが残っている。いったん付いたイメージを変えようとすると相当な時間と努力が必要である。高等学校の学校や教員が悪いということではない。通常の人事異動で三田からも来られる。</p>
井上委員	<p>おそらく茶髪で入学してきた生徒がいた頃のことを言われているのだと思うが、一カ月以内には黒髪になって授業にも真面目にいられていた。入学すぐの時にはそういう格好の子が来たということで、ざわつきはあったがすぐに通常に戻った。</p>
酒井市長	<p>やはり、日を改めて高等学校の問題については、また話をしたいと思う。</p>

酒井委員	<p>このような事ばかり言っていると篠山の子が市外ばかりを見てしまい、また市内の高等学校の定員が減り、学校が減るという流れになってしまう。例えば、産業高校の校長に生徒の様子を聞くと、本当に良い子ばかりであるという話であった。</p> <p>今は違うかもしれないが、イメージが良くない、あそこに行っても勉強できないという時代が長かった。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>それはない。それは固定観念である。</p> <p>それが原点である。今の子ども達がそうだとは一切言っていない。それで学校の偏差値が実際問題として落ちてしまった。市長が通っておられる時の鳳鳴高校と10年前の高校とは全く違う。そういうイメージが残っているから篠山市内の学校が選んでもらいにくいのではないかと分析をしているだけである。</p>
井上委員 酒井委員 井上委員	<p>鳳鳴高校が選ばれないのは希望のクラブ活動が出来ないからである。</p> <p>それだけではないはずである。</p> <p>勉強も部活動も文武両道したいとなると市外の学校を選んでしまう。その原因は定員が少なくなり生徒が減ったからである。8年前からずっと鳳鳴高校に子どもを6年間通わせたが、本当にみんな一生懸命頑張る子ども達である。</p>
酒井委員	<p>進路変更の子ども達が産業高校にも結構あった。そういったイメージがまだ残っているということである。</p>
酒井市長	<p>実態が分からず、保護者や生徒がそういったイメージだけで市外に行ってしまうのは大きな問題である。</p>
酒井委員	<p>クラブ活動だけで選ばないということだけが問題ではない。きっちり分析して対策を建てる必要がある。</p>
中村委員 井上委員	<p>一度付いたイメージは、しばらくは深くあったと思う。</p> <p>今第1希望と第2希望が書けるが、第2希望で三田から篠山に来ている子がどれくらいいるのかは気になる場所である。</p>
酒井市長	<p>分からない者同士で話をしても仕方ないので、総合教育会議とは別に高等学校からも先生を招いて話をしたいと思う。今のうちに、この中でも見解が一致しないのである。市内3高校で安心だというようにしていかなければならない。</p>
酒井委員 酒井市長	<p>市長と私の認識は違うのか。</p> <p>そういうイメージが、いまだに持たれているという話であったので、私はそうかなと疑問に思った。そうであればイメージを変えていかなければならない。大きな問題であるので、別で行いたいと思う。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>残りのテーマ、「4. スポーツに親しむ」「5. 篠山ならではの文化を育む」「6. あいさつと生活習慣」まとめて行きたいと思う。</p> <p>「篠山ならではの文化を育む」ということで様々な取組がなされており、有り難いと思う。例えば、交響ホールで市民が行う芸術文化活動を支援す</p>

<p>酒井市長</p>	<p>るという部分を取り込んでいただきたいと思う。教育委員会が主催する事業も大切だが、市民が主催の活動の掘り起こしや支援も、この教育大綱には含まれていると思うので、そういう部分での取組を評価してほしい。</p> <p>挨拶も頑張っていたらいいし、早寝早起き朝ご飯も頑張っていたらいいと思う。時間も来てしまったのでこの辺りで閉めたいと思う。教育大綱の推進については、今日の事をふまえて、引き続き推進していただきたいと思う。次回はいつ頃の予定か。</p>
<p>小林課長</p>	<p>10月～11月頃を目処に開催したいと思う。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>それでは平成28年度第1回の総合教育会議を終了する。</p>